

令和2年第1回新宿区次世代育成協議会部会（令和3年1月26日開催）での主な質問等

◆議題1 新宿区子ども・子育て支援事業計画（第二期）の見直しについて

項目	質問	回答
「現況」の時期について	資料1の3ページ～「第2章 目標別の取組みの方向」の表について、「現況」の数値はいつのものなのか。	もともとの計画の「現況」は、平成30年度決算の状況を反映しています。今回、実行計画において目標が変わっているものにつきましては、目標に対応して令和2年度の状況に変えています。
新型コロナウイルスの影響で中止になった事業について	新型コロナウイルスの関係で中止した事業について、どれくらい柔軟に別の事業に予算を使ってよいのか。	基本的には事業の範囲内で対応が取れるものについては、対応しています。例えば、講座や研修を動画配信で行う等の内容の変更を行っています。
保育・学童クラブの質の確保について	量の拡充については目標値が書かれているが、質の確保の対応策の記載がない。質の確保についてどのように考えているのか。	（学童クラブについて） 今回の資料は、計画策定時から変更する部分をピックアップして掲載しています。策定時の計画に「学童クラブの質の向上」として、利用者アンケートの実施、事業者会議・研修の実施、区職員による巡回指導等の記載をさせていただいているので、今回の資料には記載がないということでご理解ください。 （保育について） 緊急事態宣言が出て、外部の人が園に入るのをなるべく控えている状況ですが、研修や指導検査のやり方等も柔軟に対応し、質の確保に努めています。

◆議題2 新宿区子ども・子育て支援事業計画（第二期）新規・拡充等事業について

項目	質問	回答
新型コロナウイルス収束後の事業のあり方について	コロナ対策として事業変更したもののについて、収束したら元の形に戻すのか。それとも事業評価をしてみても良い影響があった場合には、それを常態としていくのか。	今のところ、現在のコロナ禍における状況に対応するものですが、この状態が事業として効果がある場合には、また後日の検討課題となります。

◆議題3 新宿区における子どもの貧困の連鎖の防止に関する指標について

項目	質問	回答
区で設定する指標について	区独自の指標は比較対象がなく、妥当性がわかりにくい、時系列で振り返ることができるという意味で指標として設置されているのだと思う。ただし、「子ども食堂の数」の指標において、コロナ禍で休止していても数にカウントされてしまうのであれば、指標が世相の影響を受けなくなってしまう。食数をカウントする等の工夫が必要ではないか。	コロナ禍であっても、子ども食堂はお弁当方式に変えたり、フードパントリーの活動を行ったりと、工夫して事業を行っている状況で、活動数が社会情勢を反映するという状況にはなっていないと感じています。 委員から、指標についての提案をいただきましたが、新しい指標を設定する際には、貧困の連鎖の防止との関連性の判断が難しい場合もあり、今後の勉強の課題としていきます。

◆報告1 子どもの貧困対策等に資する新宿区の事業について

項目	質問	回答
受験料の支援について	生活保護を受給している家庭の受験生が、滑り止めで私立高校を受験したいのだけれども、受験料が1校2万以上かかるのでいくつも受験できず困っているとの話を聞いた。入学後の授業料の支援はあっても、受験料の支援は何かあるのだろうか。	<p>(受験生チャレンジ支援貸付事業について)</p> <p>受験生チャレンジ支援貸付事業として、経済的に困難な家庭に学習塾の受講料や高校・大学などの受験料の貸付を行っています。令和元年度は、中学3年生29件、高校3年生25件の実績がありました。(補足：部会では地域福祉課の事業とお話しました。区の担当部署は地域福祉課ですが、社会福祉協議会の事業となりますので、問い合わせ先は社会福祉協議会になります。)</p> <p>(生活保護受給世帯の子どもへの受験料の支援について)</p> <p>公立高校の受験料の額を上限として、原則として2回まで支給しています。また、大学等への進学を目指す高校生については、8万円を上限に大学等受験料を支給しています。(補足：部会ではお話しませんでした。生活保護世帯の子どもへの支援について追記しました。)</p>
新宿区の子どもの現状について	<p>コロナ禍で学校の先生は、子どもたちに不安を与えないように頑張っていて、子どもたちも不安を抱えながらも明るく過ごしている。</p> <p>新宿区の子どもたちは今どうなっているのか教えていただきたい。</p>	<p>子どもたちは新しい生活様式で元気に登校しています。生活が変わることでの心配については、スクールカウンセラーが学校に入って子どもたちの様子を丁寧に見るようにしたり、アンケート調査で子どもの異変に早く気が付いて対処するようにしたりしています。</p> <p>また、インターネット環境がないお子さんにタブレット端末を貸し出して学習環境が保てるようにしたり、不登校のお子さんについて、フリースクールとの連携も強化するなど、幅広い視点でみていけるように考えています。</p>
「あんだんて」等での若者相談の事例について	<p>Q：先ほど話があった「あんだんて」での若者の事例について教えていただきたい。</p> <p>A：「あんだんて」や「しんじゅく若者サポートステーション」の事例を紹介します。(相談事例、状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は日中に1人で家で自由に過ごしていたのに、コロナ禍で家族と接する時間が多くなり、外出できる状況でもないからストレスが溜まる。 ・新型コロナウイルス感染症罹患の不安から定期通所を控えるようになったり、これから定期通所、就職活動などをはじめつもりだった方が活動意欲を失ってしまった。 ・アルバイト先の業務縮小に伴い、勤務時間が減少した。 ・仕事をする楽しさを体感しはじめた職場体験が、受入先の感染症対策のため中止になり、物足りなさを感じている。 <p>(支援における課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムについては、集団活動の制限、会話や接触を控えるよう組み立てているので、活動内容に物足りなさを感じている。人との関わりによる経験や達成感が得られる機会が不足している。 ・集団、対面で行うプログラムをオンラインにより実施するが、講師の一方的な話になりやすいので、参加者同士のコミュニケーションが生まれにくい。また、環境が整っていないためにオンラインでのプログラムに参加できない人もいる。 ・団体や企業が外部の人との接触を控える傾向にあるため、ボランティア活動や職場体験などの実践的な活動が難しい。 ・若者支援事業の周知活動は、社会との接点を多く作っていくことが重要であるため、活動の制限は若者支援に大きく影響している。 	

◆意見情報交換（学識経験者の委員からのご意見）

新宿区「子ども・子育て支援事業計画」を作成するにあたって、毎回膨大な調査を行っている。その中に子どもたちに直接質問をしている調査もある。計画を作成するためだけの調査だけではもったいないので、次回からは、子どもたちの日常生活の状況把握が反映できるような項目をいくつか設定することも考えてみてはよいのではないかと。

コロナ禍の大変な状況の中だが、新宿区は一刻も早くそこから抜け出せることを希望として持っていきたい。（福富部会長）

コロナ禍の会議ということで、計画の見直し等の議題に関する検討よりも、新宿区の子どもたちがどうなっているのかということに焦点が移っていったと感じた。それだけ子どもたちの状況が逼迫している証だと思う。子どもの貧困の連鎖の防止に関する指標についても、社会的養護を必要とする子どもには就職率の指標は重要であるので、削除した就職率の項目についても忘れずに見ていければいいと思う。

大学でも休学や退学をしようかという学生が従来よりも多くなっている。大学の中でも話を聞く場を設ける努力をしているが、若者支援の一環として地域での取組みとリンクしていければと思っている。

（太田委員）

今、コロナ禍の特別な時代を生きていて、そのしわ寄せが子どもたちにいつている。特に卒業生・新入学生と他の学年との格差が出ないような経験が保障される現場であってほしいし、それを支える区政であってほしいと切に願う。

また、子どもの健全育成を支える大人を支える策がなかなかないが、柔軟に対応していただきたいと思う。また、保育等の質について、次期計画の中でも何か具体的な方策を検討していただきたい。

（石井委員）